

自治連だより

第 108 号

令和8年1月1日

発行 栗東市自治連合会



一歩一歩着実な自治会活動を

栗東市自治連合会 会長代理 中村 昌司

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、栗東市自治連合会の諸活動にご協力、ご理解を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、皆様ご承知のとおり、一昨年は石川県能登地方で大地震等が発生し、筆舌に尽くしがたい程の大被害が生じました。

その後も、日本各地では地震をはじめ線状降水帯等による洪水が発生し、その悲惨な災害状況を見聞きすることが増えてきました。

幸いにも、私たちの住む地域では大きな被害はありませんでしたが、改めて「防災」の強化やあり方を考えさせられる一年でした。

栗東市では、この点について防災士会の指導や協力を得て、各地域の防災への取り組みも進められており、今後の大きな地域課題の一つとして挙げられると考えています。

近年、各地域では住民の生活に利便性と充実化が図られてきましたが、他方ではそれらに伴い地域を構成する各年齢層の構成比が変化したこともあって、地域の状況が大きく変容していき、各地域ならではの新しい課題や問題も生じてきました。また、生活の多様化、住民の高齢化の進展に伴い、自治会活動のあり方や意義が問われる時代となりました。各地域での自治会役員のなり手不足、役員の負担軽減、各行事の形態の変化など多くの課題が生じてきました。しかし、自治会には住民がお互いに協力し、尊敬しあうコミュニティーを広げるための大きな基盤・組織であります。

各自治会での問題や課題に対して、住民の意向を十分に踏まえつつ、丁寧なコミュニティーづくりを、一歩一歩着実に進めていくことが肝要だと考えます。

皆様の一年のご健勝とご多幸を心より祈念いたし、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



「いつまでも住み続けたいくなる 安心な元気都市栗東」を目指して

栗東市長 竹村 健^{やすし}

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、栗東市自治連合会役員の皆様をはじめ、各自治会の皆様には、市政運営に格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は「大阪・関西万博」や「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の開催など文化・スポーツと盛り上がり

た一年となりました。自治会でもまつりや運動会の開催などを維持する工夫を取り入れながら、地域を盛り上げていただいていることと存じます。

令和8年も持続可能な自治会活動の実現にむけて、市としても引き続き自治会の負担軽減などの取組みを進めてまいります。自治会は「共助」の重要な役割を担っており、災害対策や高齢者・子どもの見守り、地域の環境整備、地域コミュニティーの活性化など、安全安心で住みやすいまちづくりに欠かせない組織です。

栗東市を「いつまでも住み続けたいくなる安心な元気都市」にするためには、行政、自治会をはじめとする関係団体、事業者、市民がともに連携、協働する体制の維持が必要です。

市民一人ひとりが安心して暮らせるまちづくりに向け、皆様の知恵と経験が大きな力となります。栗東市

を住みやすいまちにするため、引き続き全力で取り組んでまいります。

本年も、自治連合会役員の皆様をはじめ自治会の皆様の変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

地域のつながりを目指して

治田東学区 川辺県営住宅自治会 会長 古川 正彦

令和7年3月に開通した一級河川金勝川に架かる治田大橋の近くにある128世帯の自治会です。入居されている方は、高齢者が多いため家に閉じこもりがちになっているのが現状です。長い間未選任だった民生児童委員は、家族と同居されるために引っ越してこられた方が、引き受けてくださり活動していただいています。

一方、地域の方が気軽に集まれる場所（サロン）を最近引っ越してこられた別の方が中心となって、立ち上げるようになりました。地域の人が気軽に集まれる場所として、第1回目を11月9日に開催し、多数の方に参加いただきました。今後は、毎月第2日曜日13時

より引き続き開催していきます。

さらには、高齢者が多いことに不安を感じていることから、12月10日から毎週水曜日13時より長寿福祉課の協力を得て、いきいき百歳体操も始めることになりました。

今後は、参加者からの希望を聞きながらイベントも実施したいと考えています。身近な自治会館で高齢者や一人暮らしの人が集まり、おしゃべりや何歳になっても元気で楽しく生活するための体操を続けていく事で、地域のつながりも増え、見守り、支えあいながら安心して地域で過ごせることを目指します。



自治会活動について

治田西学区 小柿二区自治会 会長 齊藤 勝

小柿二区自治会は、現在450世帯の自治会で、新しく越してきた新住民の割合が、旧住民の割合より多くなっています。

自治会の主な活動としては、環境整備活動として年3回の一斉清掃、防災防犯活動としての防災訓練や愛のパトロール、年末夜警、地域親睦活動としての子どもみこし祭り、地藏盆、敬老会、ボーリング大会、ふ

れあいまつり等を行っています。

特に、今年から夏の暑い盛りの7月に行っていたふれあい夏まつりを、ふれあい秋まつりとして10月に変更して開催しました。近年の夏の猛暑を避けて過ごしやすい時期の開催に変更し、また以前であれば自分たちで模擬店を出していましたが、キッチンカーを呼んだことで、運営に携わる方々の負担軽減を図りました。

これも、主要な事業に携わっていただいた方々と行事終了後の反省会で出された意見をもとに、見直しをしました。日頃から自治会の皆さんとのコミュニケーションを図ることがとても大事であると感じています。

これらの行事の開催により、小柿二区の住民が親睦と交流を深めることで、住民同士のつながりが生まれ、顔の見える関係が築かれることによって、防災や防犯にも役立つものと思っています。

最近の問題は、自治会運営が難しくなっている

ことです。自治会活動が役員の負担になっており、そのことが自治会役員の引き受け手がなく、人選に苦慮している現状です。同じ地域に住んでいる者同士が助け合い、協力し合うことが大切であります。また、自治会の運営方法や役員の役割についても令和の時代に合ったものに変えていく必要があると感じています。自治会活動に関し、これまでの過去のやり方にこだわることなく、新しい形の自治会を模索していきます。



変わりゆく自治会

大宝西学区 明日香自治会 会長 木村 清次

明日香自治会は、戸数38戸の小さな自治会で、そのうえ、住民の約半数が高齢者となっています。私たちは「安全で住みよいまちづくり」を大切に、自治会を運営しています。

発足当初、活気あふれるまちづくりを目指し、様々な催しが行われており、中でも夏の納涼祭は、大人も子どもも楽しくふれあい、賑わいのあるものでした。しかし、当然のことながら少子高齢化に伴い少しずつ静かな住宅へと変わり、自治会活動も縮小され、さらにコロナ禍の影響は大きく、自治会活動の立て直しには、役員の負担が重くのしかかっています。生活環境の変化に合わせて、柔軟に多様な活動を進めて行く必要があります。

近年では、住民のふれあいの会と敬老会を兼ねて一同に会する催しを行っています。全員の出席は難しいものですが、みんなで交流できる機会となり、日々の

暮らしに色を添えるものになればと期待しています。

また、住みよいまちづくりを考えるうえで、自主防災活動はとても重要です。日頃から「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を大切に訓練に取り組んでいます。当自治会では、住民の高齢化を迎える中で、安否確認を一番の課題として訓練を重ねています。

現在、明日香自治会では、一期二年の輪番制で役員を担っています。役員のなり手不足を補うための実用的な方法ですが、住民の意識や協力が不可欠です。今、私は任期の二年目となり、役目の終わりが見えてきたところです。しかしながら、この次に順番が回ってきた頃には、果たして役を全うすることが出来るだろうかと不安がよぎるのが実際のところです。自治会活動の在り方の難しさを実感しながら、今後の運営に努めてまいります。

町内由来の紹介とまちづくり

葉山学区 宅屋自治会 会長 田中 博

令和2年から3年間コロナのため、活動がされていませんでした。

令和5年度からコロナ感染者が減ってきて、人が集まり夏祭り、敬老会が行われて少しずつ活動ができる

ようになってきました。ここで、宅屋自治会の紹介をさせていただきます。国道8号野洲栗東バイパス工事で出庭遺跡発掘調査が平成30年から令和4年にかけて行われ、古墳時代前期から中期（約1700～1600年前）

の堅穴建物が見つかり、5世紀前半の堅穴建物群からは鍛冶工房の炉跡を検出し、ガラス小玉鑄型、韓式系土器が出土しています。平安時代から鎌倉時代には集落が営まれています。

今の出庭・中・宅屋・清水ヶ丘は醍醐寺文書によりますと室町時代文明5年(1473年)醍醐寺樹院の僧澄恵が弥太郎という人物に、田地3段を譲り渡しています。文書にはその場所を「中村図之内」とも「出庭郷田地」とも記しています。15世紀後半には、栗太郡に「中村」や「出庭郷」が存在していたことがわかります。江戸時代の検地帳では、出庭村と中村、宅屋村は広く「出庭村」として扱われて一冊に記載されているのですが、一方で中村と宅屋村は出庭村「枝郷(分かれた村)」であると認識されています。

また、中村と宅屋村についても、宅屋村は中村の「出郷(分かれた村)」や出庭中村之内宅屋という記載が

あります。安土桃山時代天正4年(1576年)宅屋の里は八毛野とよばれ大荒原で出庭中村にあり、八毛野八軒で出郷し開拓開村創成されたとしています。後の宅屋です。(里内文庫資料)

寺が出来、その後に宅屋天満宮が、安土桃山時代天正8年(1580年)に出来ました。宅屋天満宮を宮当番で管理されています。栗東市のインターネットのホームページに写真で紹介されていて、県内の人と外国人が参拝されていますので、お立ち寄りください。

また、まちづくりで県道片岡栗東線が出来、国道8号野洲栗東バイパス工事がおこなわれ、町内が変わろうとしています。今まで見えていた風景が見えなくなります。

開発による良いまちづくりで世代が変わり、時代も進み栗東市の市民憲章にうたわれているまちづくりにうまく受け継がなければいけないと思います。

葉山東学区からのご報告

葉山東学区 小野北自治会 会長 斎藤 一彦

私たち葉山東学区は、これまで市全体の発展に寄与するさまざまな公共事業に協力してまいりました。昨年8月には国道1号バイパスおよび山手幹線が開通し、地域住民の生活環境に大きな影響を及ぼしながらも、交通利便性の向上に寄与できることを喜ばしく思っております。

また、令和14年には市民待望の健康運動公園(ホースパーク)が開園予定となっており、スポーツや健康づくりの拠点として期待されております。一方で、令和10年3月には火葬場の稼働が予定されており、栗東市環境センター(焼却施設)についても栗東市においては現在場所の延長か移転かの協議を進めてこられていましたが、ほぼ現在の場所で延長の方向で協議が進んでおります。葉山東学区がその立地を引き受けております。

このように、葉山東学区は市民生活に不可欠でありながらも、時に「迷惑施設」や「嫌悪施設」と言われるものを含めた住民からの意見が多い中、市全体のために大変な役割を担っております。これらの施設の存在は、栗東市全体の安心・安全な暮らしを支えるという点をご理解いただければ幸いです。

また民間開発案件は、工場や物流に対する開発案件であり、市にとっては税収アップにつながりますが、マイナス要素として大型車輛、通勤用の車輛増加で地元は安全や渋滞等の対応が必要になっております。葉

山東学区は今後も、市全体の発展と住みよい環境づくりに寄与する学区として努力を続けてまいります。

下記が葉山東学区民間開発及び公共事業の計画資料となります。

